

<市庁舎建設基本構想について>

前回のワークショップで話し合われた内容の一部で 9/29 の議題にも掲載されている印象的な発言がありましたので、私見を提案させていただきます。

「庁舎機能」「施設規模」は、従来の既成概念や枠に囚われず、もっと自由で先進的な発想に転換することで、大幅な省スペース化と予算削減が実現できるのではないかと考えられます。

一例として会議室や小ホールに転用できる簡素な議場や控室などがあります。特に議長控室や議員控室の必要性を議論してもよいのでは？ もし、不可欠であれば簡素な休憩室に可動式の間仕切りだけで十分に機能できると思います。

「執務室」も民間では、既に IT 化やペーパーレス化により従業員ごとの固定机を廃止して省スペース化と経費削減を実現している企業も多くあります。人口が 10 万人多い茅ヶ崎市と現行案を比較すれば削減の余地は十分にあると考えられます。

「自然エネルギー活用」では、「地熱利用」という発言に対して市内唯一の「鷲沼温泉」を思い出しました。現在の民間施設は古いためか利用者数は減少傾向ながらも高温で良質な銭湯として常連客に人気があると聞いております。

地熱発電の余熱を市民温泉やプールに活用するという副産物案によって、未だに根強い市庁舎建設反対意見に対しても目で見えて納得し、実感できる市民参加型サービス施設をアピールできるのではないかと思います。市民の健康増進を図ることは、高齢者の増加で増大する一方の医療費削減にも大きく貢献できるものと予測されます。

さらに、市民の憩いの施設として、また“水と緑のまち”をアピールする習志野市の目玉的スポットとして、身近にある魅力的な交流スペースになるものと予測されます。ぜひとも検討し実現していただきたい夢の一つとなりました。